

# RGZ-091 Re-GZ

リ・ガズイ

第三世代MSの代表格であり、圧倒的性能を誇るΖガンダムの改修型試作機。高性能な反面、開発コストの高騰によって量産の妨げとなっていたΖガンダムの基礎設計を見直し、簡易変形機構ともいえるBWS(バック・ウェポン・システム)の導入を決定。無重力環境下における高速巡航と高機動戦闘を可能とする機体に刷新された。だが最終的に複数機が建造されるに留まり、機体はロンド・ベルに配備されている。



|         |   |
|---------|---|
| 全長      | 20.5m   |
| 全幅      | 24.7t   |
| 全高      | 5.52t   |
| 装甲材質    | ガンドリウム合金  |
| 主武器     | 2.550kw   |
| 主武装     | 67,600kg  |
| エンジン推進  | 18,900m   |
| ビームライフル | 1<br>ビームサーベル<br>2連装グレードランチャー(腹部、腰部)<br>腰部バルカン砲×2<br>ソール(バードグレード×3)<br>BWS(メガビームキャノン×1 ビームキャノン×2)<br>アムロレイ ケーラークラウ |

## GUNDAM MS Bible 22

### CONTENTS

- 戦場レポート  
アクシズ攻撃・前哨戦
- MS機体解析  
機体解説  
武装解説
- 関連MSラインナップ  
リ・ガズイと関連機体
- MSバイロット  
ケーラ・スカと関連人物

- MS戦記  
リ・ガズイ 戦闘の記録 16
- MS進化論  
リ・ガズイ 開発系譜図 18
- メカニック・ジャーナル  
試作機と主力筐体  
シャアの反乱 20  
30
- ガンプラ ジェネレーション  
BWSによる特徴的な変形機構を再現! 34







『機動戦士ガンダム 逆襲のシャア』より

# アクシズ攻略・前哨戦



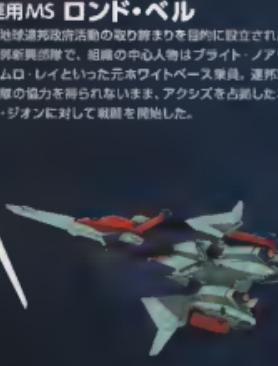
## 運用MS ロンド・ベル

反地球連邦政府活動の覗り跡まりを目的に設立された外興新興部隊で、組織の中心人物はブライト・ノアやアムロ・レイといった元ホワイトベース乗員。連邦軍本部の協力を得られないまま、アクシズを占領したネオ・ジオンに対して戦闘を開始した。



RGM-89  
JEGAN  
ジェガン

RX-93  
ν GUNDAM  
νガンダム

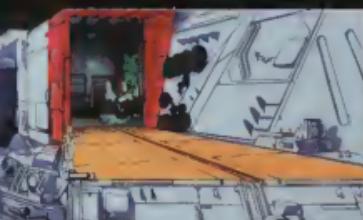


運用通常形態  
(スペース・ファイター)



RGZ-91 Re-GZ  
リ・ガズィ

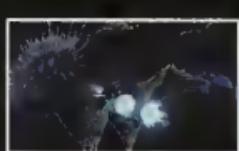
本機として知られるΖガンダムの部隊を目的に開発されたMS。運用通常形態のEW5を使うことで、運用通常形態に変形できる。



地球連邦政府高官と停戦交渉のテーブルにつき、戦力放棄の見返りにアクシズを譲渡されたシャア・アズナブル。だがすべては巧妙なフェイクであり、ルナツーに投降すると見せかけたネオ・ジオン艦隊がルナツー基地を強襲。駐留する連邦軍艦隊を屠っただけなく、その地に保管されていた核弾頭を奪奪した。核弾頭ごとアクシズを地球に落とし、「核の冬」を起こす——人類への凜清こそがシャアの狙いだったのだ。一方、いち早くシャアの意図に気付いたロンド・ベルは独自に艦隊行動を開始。地球に向けて移動を始めたアクシズ周辺海域で、ネオ・ジオンMS部隊との戦端が開かれることになった。

## 戦闘海域

U.C.0072、ジオン公国が資源採掘用に使用した小惑星がアクシズである。火星と木星の間に広がる小惑星帯に位置しているため、木星ヘリウム船団の中継基地としても利用された。一年戦争後は公国軍残党勢力の潜伏場所となり、U.C.0087.10.12に地雷敷設に移動。第一次ネオ・ジオン戦争後は地球連邦政府の管轄下に置かれていたのだが、シャアがいるネオ・ジオンに占領され、「隕石落とし」に利用されている。



■アクシズ空撮（後方に見えるのは核爆発核バルスエンジンノズル）。

## 運用MS ネオ・ジオン

シャア・アズナブルを総帥とする反地球連邦組織。地球を敵とする人類を撲滅すべく「隕石落とし」を実施するが、それは表向きの理由であり、実質的に人類を宇宙に寄せさせ、ニュータイプへの道を塞めさせたのがシャアの真意だった。



MSN-03

JAGD DOGA GYUWE USE

ヤクト・ドーガ (ギュウイ機)

ギラ・ドーガを母体とするニュータイプ専用機。  
ギュウイ機は近接・強制搬送に適した武器を有する。

AMS-119

GEARA DOGA

ギラドーガ

MSN-03

JAGD DOGA GUESS USE

ヤクト・ドーガ (クエス機)

MSN-04

SAZABI

サザビ

## HISTORY TIMELINE — 物語の脈絡 —

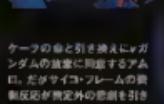
### 死闘の果ての悲劇

リ・ガズィのパイロットとしてロンド・ベルMS隊の先鋒を任されたケーラ・スラは、地球落下コースに入ったアクシズの破壊もしくコース変更を試みる。だが任務に因襲すぎたあまり、接近してきたヤクト・ドーガ (ギュウイ機)への対応がおろそかになり、機体は大破。さらに自分自身もヤクト・ドーガに捕縛され、救援に駆けつけたアムロ・レイに対する人質に利用されることになってしまった。

ヤクト・ドーガと機体機の攻撃を前に崩落を喫ねるリ・ガズィ。ついには自力行動が不可能になってしまった。



飛沫するアムロに警告しようとしたケーラはノックを被弾するが、そこを狙われて、ヤクト・ドーガに撃墜されてしまった。



# MS 機体解析

## RGZ-91 Re-GZ リ・ガズイ

### 変形とは異なる手法で 機能の再現を目指した Zガンダムの簡易量産機

MSZ-006 Zガンダムは単体での大気圏突入能力をはじめとする全領域対応可変MSの性能をもって、以降のMS開発に大きな影響を与えた。だが、その高度な通用性の再現は容易ではなく、量産化に際しては一部の機能を省くことでコストダウンが図られた。RGZ-91リ・ガズイは、そうした背景で開発されたZガンダムの簡易量産機である。

リ・ガズイは、地球連邦軍外郭新興部隊ロンド・ベルの戦力拡充に並行して開発が進められ、U.C.0091にロールアウトしたとされる。機体名は「リファイン・ガンダム・ゼータ」の略称に由来し、Zガンダムの変形機構を廃して、新たなオプション装備であるバッケ・ウェポン・システム（BWS）を用いた簡易変形を採用した設計を特徴としている。それでも他のMSに比べてコスト高だったため、量産化には至らなかった。

ネオ・ジオンのNT専用時に對抗するために開発され、アムロ・レイの実機として選用されたが、性能不足は否めなかった。

開発当初は1両のみが生産されるに貲まっていたが、U.C.0096時点でのラード・カイドムに配備された艦体が複数されている。

### 機体比較



高派高形態は大型の火薬を搭載するが、MGでの開拓面は20m程度で大掛かりと評されるほど大きなサイズではない。Zガンダムの設計をコピーしたスマートなフォルムを特徴とし、胸部や脚部にそれが色濃く表れている。



同スケール  
パイロットとの対比。

# MS 機体解析 機体解説

## ZガンダムのMS形態のみをコピーすることでコストダウンと性能維持の両立を図った設計

Zガンダムのムーバブル・フレームは、基本構造のコピーが容易で強度にも優れるという特徴を有していた。リ・ガイズの設計はそれを生かしてMS形態の構造のみをコピーすることで、コストを抑えつつ原型機の性能の再現を図っている。また、本機は計画から建造までに数年を要したが、その間に実用化された技術やデバイスを各部材に用い、原型機に迫るスペックを獲得していたとされる。なお、本機の開発はAE（アナハイム・エレクトロニクス）社が担当し、アムロ・レイも開発に携わったと言われている。

### ■頭部

頭部は信頼性や歩留りの観点から、RGM-89 ジェガン系のモニタリング用装置や走査端末などを用いていたとされる。一方、本機はバイオセンサーを廃棄しており、その周辺機器には独自のデバイスを採用し、バイロットに適した設定が可能だといふ。また、頭部にはバッカ・ウェポン・システム (BWS) の遠隔操作やドロイングコントロールを行う相互通信システムも設けられていたが、あまり最適の機能しか実現していないかったと言われている。



カンタムタイプMS と同じデュアルカメラを採用しているが、V型アンテナは装備されていない。

前述の中破状態でも頭部ユニットはほぼ無傷だったが、全灭頭部モニターには不整合が生じていた。



RG-91  
Rg-02  
Rear View



いわゆる「Z系」のシャープな外観が強調。頭頂部に装備したロット・アンテナを2基ずつ備える。



### ■胴体

胴体はZガンダムの変形機構を廃したうえで、構造強度を保つ設計がなされていたと言われる。また、設計変更によって小型化したサブジェネレーターの増設が可能となり、機体稼動の信頼性が向上していたといふ。背部にはフライング・アーマーに替えて左右に分割された構造のバッカパックを装備し、その中央にはスタビライザーを配している。バッカパックは片面につきスラスター1基と、後方に向いた2基のブースターノズルをハッチ内部に備えていた。



側面アーマーにもサブクラスターを備え。主戦MSとは一貫を誇る優れた機動性を実現した。



中破状態の胴体周辺。表材には鋼製のカーボンファイバーコートが施されていると言われる。



胴体ユニットの外形は原型機に近い。頭部フロントアーマーなど、機体各部には計20ヶ所の装甲板を採用。一方、ビーム砲装備には



ビーム・サーベルを装備するリ・ガイズ。BWSを搭載することで通常のMGと連携しない機動力を発揮する。しかしシャアの暴走（ザギビー）と対戦するのに戦力不足は認めなかった。

## ■コクピット

コクピットは一般的なMSや原型機と同じく腰部に位置している。その内部構造は全天周囲モニターにリニア・シートという標準的な仕様に加え、U.C.0090年代初頭の最新インテグフェイスであるアーマードライバーを採用した点を特徴としている。たたか、Z系機は操縦席がデリケートで先駆的な導入を示すという欠点を抱えており、それは本機にも共通していたとされる。

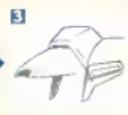


リニア・シートはシェンのものよりヘッドレストがやや大きく、プロントパネルの構造も異なる。

## コクピット・ハッチ展開構造

### コクピット・ハッチ展開

コクピット・ハッチ展開



### 脚部

本機の脚部は通常の作業肢としての役割に加えて、BWS装備時の姿勢支持構造を兼ねている。そのため、ユニット設計においては性能性や堅牢性が重視され、元機の構造を単純化したうえでジエガン系のフレームや部材を用いることで、その基準を満たしていたという。また、変形機構を廃してそれに関する機能を省略したこと、性能性の向上に努めていたと考えられる。



ミニビューリーターには頗る的な脚部として、ダミー・バルーンの射出機構を内蔵している。



足部には収納式のフックが4箇所設けられており、接地時に収納することで機体を安定させる。

### 脚部破壊

ロンド・ペルに配備された本機は「シャアの反乱」のアクションを追う攻防戦において中破し、パイロットのケーラ・スゥも戦死した。右がその際の破壊状況で、戦闘能力をほぼ失った状態だった。その後、ラー・カイラムに回収された機体はメインエンジンの1基が応急修理されたものの、チーン・アギによって持ち出されて混戦のなかで喪失することになった。



回収された機体は、脚部半ばでカタパルトに保護されていたが、チーン・アギによって出撃した。

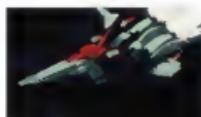


右脚部と右脚部、左バックパックとスクエアライザなどを失っていた。上は接続した右脚部の外観。

# MS 機体解析 機体解説②

## ウェイブライダーの一部機能を再現したオプションによる宇宙戦闘機への簡易変形

リ・ガイズは量産化の障害となる変形機構を廃す一方で、Zガンダムの巡航形態であるウェイブライダー(WR)の機能を専用オプションに集約することで、変形を介さずにそれと同等の運用効果を得ようとした。それが「バック・ウェポン・システム(BWS)」による簡易変形機構である。BWSを装着した本機は「高速巡航形態」もしくは「スペース・ファイター」と呼ばれ、WRのような大気圏内運用能力は持たない。だが、宇宙戦闘機として優れた性能を有し、限定的な専用においては戦闘機に匹敵する運用性を示したのである。



BWSを操作したり、ガイズは、特定の戦術においてはWRを凌ぐ砲击戦闘能力を発揮したとも言われる。



乗れた空撮機能性を施しておらず、アムロが指揮した戦にはオールレンジ攻撃する戦闘している。

RGZ-01 Re-GZ  
Space Fighter Mode

BWSでMSを構成したシンプルな構造だが、実際は大きくなり込んでおり、宇宙戦闘機そのものである。

かつてになつたリ・ガイズの上半身に備せるようにしてBWSが構成される(赤で色が塗られた部分がMS)。



右座の色がついた部分がBWSで、機体前部と側面を構成する。左右の主翼にはプロペラント・タンクだけでなく複数のパイロンを実装できる。



BWSの各部には動制御用バーが記されており、方向制御に用いられた。また、機首前方の上面にはセンサーを備える。



シールドは機体下面を防護すると同時に、四枚を隠す用意も備えます。また、本形態では面鏡が変形して隠される。



MS本体は完全に隠されてしまひではないが、BWSは小型ミサイル装置であれば描えられる面鏡を有していた。

### ■運用

高速巡航形態では、BWSの固定兵装によって火力が増強され、プロペラント・タンクなどにより推進能力も向上する。また、推力方向が後方に集中されることで一挙に飛行速度に遅した機体特性を獲得し、戦闘機としての運用が可能となる。ロンド・ベルでの運用においても、巡航能力を生かして先鋒を担当ケースが見られた。



高速巡航形態でラム・カイラムから発射するリーガス。隠面鏡には主翼を折り隠す。



アクシスの待機態下で停止を図った第一次攻撃では、第一道MS面鏡の先端を切って隠面に突入した。



アクシス攻撃において隠面を受けての状態。左主翼を失っているが、航行に支障はなった。

### ■変形シーケンス

前述のように、本機はBWSをある程度遠隔操作する機能を備えていた。だが、MS形態で移行する際に隠面からBWSの制御は変更的ではなく、戦闘中に同僚を失ったケースはほとんどなかったという。下は高速

巡航形態からMSに移行する際のBWSの分離シーケンスを示したもの。BWS側に説明装置が搭載されていないことから分離後に再度、BWSと合体することは不可能たったと思われる。



BWSの分離は一瞬で行われ、隠面鏡の量は隠面鏡よりも少ながつたとされる。しかし、シールドの操作などに失敗した隠面も見られた。

#### ①高速巡航形態



#### ②ショイントの解除



BWS左右のユニットが上下に離れて機体の隠面が隠され、MSの脚部が変形する。

#### ③MSの姿勢変更



BWS面鏡は機体面鏡が隠されてしまひ、MSとしての機能はまったく使用できない。

#### ④BWSの隠面



分離したBWSは隠面鏡をバニアでMSから離れ、MS本体は隠面鏡を隠す。

ショイントの解除とともにシールドがBWSから外れ、MS本体も面鏡の可動が可能となる。

# MS 機体解析 武装解説

## 汎用性を重視したMSの標準的なスタイルに 攻撃力に優れるBWSを上乗せした兵装の設計

変形機構を廻してZガンダムのMS形態をコピーするというリ・ガイズの設計思想は、MSと高速巡航形態の兵装を完全に切り離した仕様にも表れている。MS形態はBWS装着時の共用を考慮に入れず、原型機に準じたバランスの良い兵装群を採用。一方で、BWSには接近戦を度外視した大火力の固定兵装を装備し、航空戦闘機としての攻撃力を追求している。また、各種兵装は独自のコンセプトに基づいた本機の専用装備として開発されているが、デバイスやパーツは信頼性を重視した部材が用いられていたという。そうした点も、量産化を目指した本機の特徴と言える。



ジエガンのビーム・ライフルに  
似たデザインが特徴。ストック  
下部の蓄能装置がメガ・エネ  
ルギーパックとされる。



左は板状状態でビーム弾頭部  
が締めている。戦闘時には右  
のように先端部が開放してビー  
ム刃が展開される。

ビーム・ライフルを発射する瞬間。片  
口両刃にビームの粒子が集中してい  
る様子がわかる。

両刃の制限までビー  
ムの形態を構えらる  
ミシタは、當時の機  
器内の制限として多  
くのMSに取り込まれてい  
た。

### ■ビーム・ライフル

MS形態の主兵装として運用されるビーム系機関火薬で、出力は3.8MWとされる。従来のものに比べてエネルギーCAPシステムが改善されており、マジン(バッテリ)にはメガ・エネルギー・ルギーパックと呼ばれるユニットが採用されていた。高速巡航形態ではシールドモードに収納されて使用不能となるが、MS形態への移行時に瞬時に取り出でて挿入することが可能。そのため、変形時の無効的な時間は原形機よりも短かった。



ビーム・ライフルを実射  
するリ・ガイズ。ジエガン  
のものと比べると蓄能  
が大型で、威力と射程に  
優れていた。

### ■ビーム・サーベル

MS形態でのみ用いられるビーム系近接戦闘用兵装で、2基搭載されていた。出力は0.7MWで、左のバックパックに1基ずつ収納されていたとする説もある。サーベルダグ(スライス)はリーサー機能を備え、蓄能の限界までビーム刃を発生させないことでエネルギー消費を抑えられる設計となっている。また、柄にあたる受撃部には簡単にビーム刃を形成させられるバイアス発生器が採用されていたと言わわれている。



細長いビーム刃を形成  
するリ・ガイズのビーム・  
サーベル。蓄能はビーム  
刃の形状が多様化した  
構造でもあった。

### ■腕部・腰部 グレネード・ランチャー

前胸部と腰部サイド・アーマーには、2連装グレネード・ランチャーを備える(各2基ずつ)。それぞれ構造が異なり、腕部のものは原型機と同じ密閉式で、グレネード弾は腰部のものより小型だが有効範囲は広い。腰部ランチャーは弾体の一部が露出した可動式で、発射時にコクピットのターゲットに運動して対象に向けられる構造となっている。



両腕グレネード・ラン  
チャーは拳銃端で近接  
戦闘の有用性が実証  
された。MSに致命打を  
与えることも可能。

5thルナの着陸では  
ビーム・ライフルによる  
攻撃でキネイガスの  
MSN-03 カク・ドー  
ガを撲滅させている。



5thルナで MBN-04  
サザビーと相撲戦を演  
じたが、ビーム・サーベ  
ルの出力で劣り力負け  
する場面も見られた。

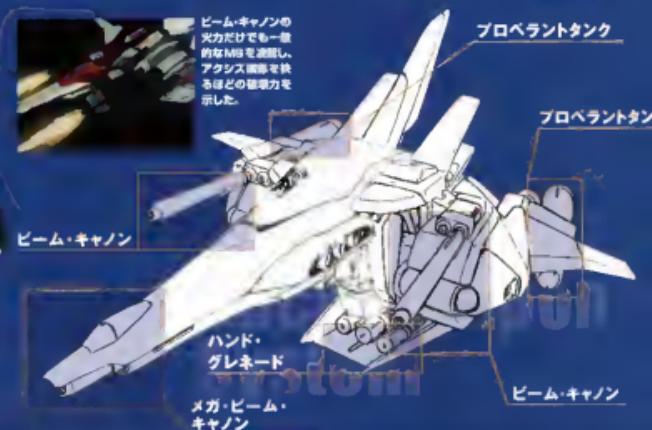


相撲グレネード・ラン  
チャーを発射するリ・ガイ  
ズ。主兵装というよりは  
隠し武器としての性職  
か扱はれたと言われる





シールドはシンボルな  
構造が特徴で、其構造  
にマウントされる。脚部  
バルカンはひめみ  
に脚部が位置している。



### ■頭部バルカン砲 シールド

頭部には口径80mmのバルカン砲2基を内蔵している。標準的な近接戦闘用固定兵器だから、使われる場面はあまり多くなかったようだ。シールドは特別な機能を持たないスタンダードな防衛装備で、運用性と耐久性を重視した構造になっている。また、シールド裏にはハンド・グレネード3発をアブソルト可能だった。ハンド・グレネードはMS形態での運用を想定した投擲兵器で、高速巡航形態でも要射できたかは不明。



BWSを切り離すリ・ガ  
イズ、機体下面を保護し  
ていたシールドがすで  
に頭部に装着されてい  
る様子がわかる。

BWS装着時のシールド  
の装着は自歯で行われ  
たと考へられるが、頭部  
の耐震なども考慮しな  
いケースも見られた。



### ■パック・ウェポン

#### ・システム(BWS)の兵装

BWSは、機体に大口径ビーム・キャノン（「メガ・ビーム・キャノン」とも呼ばれる）1基と、側面にビーム・キャノン2基を備える。どちらも高速巡航形態で運用可能な固定兵装で、特にメガ・ビーム・キャノンはビーム・キャノンとあわせて当時の戦闘機の主流に匹敵する出力を有していたとされる。それを踏まえた論議的攻撃力は東西世代MSに相当。あるいは測定艦並みの軽量が可能な水準だったとも言われており、きわめて高い駆逐能力を有していたと評価されている。「シャアの反乱」における運用でも、アクシスを巡る防護網でアクシスの後パルスエンジンノズルの被撃を試み、旗艦レウルーアをはじめとするネオ・ジオン艦隊に大打撃をうなげている。またBWSのオプションとして、左肩の主翼下にプロペラントタンク2基を装備している。ただし、BWS自体が大きな推力を持たなかっただから、このプロペラントタンクはMS本体への推進供給船を目的としていたようだ。



RGZ-95 リゼル  
(ディフェンサーb  
ユニット)

リ・ガイズは標準巡航形態の無敵性と  
BWSに搭載された固定兵装の火力によ  
って、頭部頭部をとての強烈な攻撃力  
を発揮した。その弱点・頭部コントロ  
リは、頭部頭部に搭載するRGZ-95リ  
ゼルにも見受けられ、中・頭部頭部に  
特化した仕様のディフェンサーbユニット  
(左面)なども量産されている。



# 関連MS ラインナップ



RGZ-01  
Re-GZ リ・ガズイ

変形機構を  
搭載した  
エゥゴの  
中核機



## ■ MSZ-006 Zガンダム

エゥゴとAE(アナハイム・エレクトロニクス)社の共同開発による第三世代MS。MS形態からWR(ウェイブライダー)への変形が可能で、WR形態では単体での大気圏再突入が可能のほか、SFS(サブ・ファイト・システム)としても機能する。そのため艦場に左右されない運用性とあらゆる状況に対応する汎用性が高いレベルで実現した傑作機となった。反面、生産コストや堅苦性については難を抱えている。



## ■ MSZ-006C1 Zプラス (C1型)

Zガンダムの基礎設計を踏襲し、運用領域の拡張と変形機構の簡素化によって生産性の向上を狙った派生機。まずウェイブライダー形態の有効性に着目したカラバによって大気圏内低速飛行に特化したA1型が誕生。これを宇宙用に再設計したのがC1型。さらにC1型を奔流形MSに再設計し、SFSとドッキングさせることで戦闘機形態とする試作・評価試験機(のちのプロトタイプ・リ・ガズイ)が誕生するに至った。



## ■ RGZ-01B リ・ガズイ・カスタム

バック・ウェポン・システム(BWS)に応じない可動機関を備えたカスタマイズ機。BWSは変形機構の簡素化やコスト面では有利だが、重り外すと再装着に時間がかかり、汎用性に劣るのが難点とされた。そこで再び、変形機構を搭載した機体としてリ・ガズイを再設計し、アムロ・レイ専用機に仕上げたのが本機である。しかしガズイダムが完成したことから開発は凍結。計画のみが存する幻の機体となってしまった。



積れた能力を後  
側面に伝えるため  
に隕石母体として  
利用され、基礎四  
角を背間にしたPAU  
エーション態が試  
作されている。



ウェイブライダー形態ではスラスターの推力  
ベクトルを同一方向に向けることで推進力をを  
獲得。大気圏内飛行能力を実現させた。

ウェイブライダー形態はより航路筋のフル  
ムに近づいている。機首には長射程・大威力  
を誇るビーム・スマートガンを装備している。

武装面もリ・ガ  
ズイより新規。  
ビーム・アサルト  
ライフルやハイ  
バービーム・サー  
ベルを装備する。

(ネル・アーヴィ)にも機動能が宿されており、のちにパンチャーノルに所属するデマーカー・ナース室も元々ナリギル製造だった。

リ・ガスィの流れを汲んだ重量型MS

ネオ・ジオンのニュー・タイプ研究所出身であるギュネイ・ガス・少尉が操縦。個性的なパイロットたが、ウェス・バラヤを差してシャア・スナブルと対立した。

ネオ・ジオンの姫君となつたシャア・アスナブルが操縦。アムロのガンダムを差手に死闘を繰り広げ、最終には両者とも消えを巻いている。

主力重戦機の設計を流用したNT専用機

シャアのために用意された真紅の機体

## RGZ-95 リゼル

RGZ-95の式典席からもわかるように、リ・ガスィの流れを汲んだ機体。ただし変形機構は大幅に差別化されたり、上半身はエクシンドムの変形スタイルを継承した一方、脚部やバックパックはメタスに近いシンプルな変形機構となっている。さらに内蔵の一歩をジエガンドライブと統一することで生産性も向上。リミッターによる一部機能の制限を設けることで、MSの操縦に不慣れな新兵にも扱いやすい機体となった。

バックパックには牵引用クリップが設置され、SFMとしての運用を考慮していることがわかる。実際にジエガンを新規にして発展した機体も尋ねる。

機体名は「リファイン・ゼータ・エスコート・リーダー」の縮写(ReZEL)からなら、リ・ガスィの系譜であることがわかる。

## MSN-03 ヤクト・ドーガ(ギュネイ端)

ネオ・ジオンが開発したニュー・タイプ用試作MS。ギラードーガのメイン・フレームをベースに設計されているが、サイコ・フレームの導入によってサイコミュの小型化問題を解決した。ただし完成した機体はニュータイプ専用機としての要求性能には達成しておらず、量産は見送られている。それでも兩脚部装甲に外付けされたファンネル(3基×2)は油圧攻撃機器としては無れた頃を示し、本機の支援に役立つられた。

## MSN-04 サザビー

ネオ・ジオン和姫が搭乗するに相応しい機体として開発されたニュー・タイプ専用機。コクピット両脇にサイコフレームを採用することで機体従性の向上とサイコミュの小型化に成功。武装面では主兵装のビーム・ショット・ライフルや背部コンテナのファンネル・ビーム・トマホークに加え、腰部に大出力ダメージ放射砲を設置。これによって相敵性に翻れたガンドムに対して、本機は火力に劣ることが最大の強みとなっている。

50ルナでの参戦でリ・ガスィと交戦。だがアムロの巧みな操作後を差して後退を余儀なくされている。

バックパック以外にもショルダーアーマーやサイドスクート、リラスカートに多用途スラスターを装備し、重い重量性を完解した。

作戦の重荷を負つたクシス上の戦いでローランド・ガンドムと練習戦を演じ、一歩も引かぬ強さを見せつけた。

ヤクト・ドーガ同様、全身の各部にスラスターを装備。さらにバックパックにはプロペラ・ターンクを装備し、腰部機関の機能をもつた。

# MSパイロット——ケーラ・スウ——

## ロンド・ベルの一員としての使命感を背負い 勇猛果敢な戦いの末に散っていった女性パイロット

U.C.0090年代初頭、軍縮傾向の地球連邦軍にあって、数少ない実戦部隊として機能した外郭新興部隊ロンド・ベル。だが、同部隊は反地球連邦組織の調査と摘発という任務の重要性に比して規模が小さく、実行力は隊員たちの士気へ支えられていた。そのなかで部隊の中心的な存在として働いた者のひとりがケーラ・スウであった。

ケーラは「シャアの反乱」当時にロンド・ベルに所属していた連邦軍人のひとりで、旗艦ラー・カイラムのジェガ

ン部隊隊長を務める主力パイロットだった。それ以前の経歴は不明だが、ロンド・ベルにおいてはMS部隊隊長のアムロに次ぐ腕利きのパイロットとして、アムロやプライトノア司令からも厚い信頼を寄せていた。そして、シャア・アズナブルの決起に端を発するネオ・ジオンとの戦いにおいて、その力を振るうこととなる。だが、ロンド・ベルとネオ・ジオンの激突は多くの命を呑み込み、ケーラも自らの信念を試されることになるのだった。



ケーラはU.C.0093当時のロンド・ベルに於いて有能な機動隊員を務め、パイロットであり、「シャアの反乱」においてアムロやプライトとともにロンド・ベルの命を握って戦った。

## ケーラ・スウ Kayra Su

### ■DATA

年齢:不明 所属:地球連邦軍 隊属:中隊 出身:不明 能力:MS操縦



ロンテオニオンに陥落する連中のラー・カイラムを倒したネオ・ジオンMS砲艇と交戦。レズンとも刃を交えている。



ラー・カイラムに犯されたハサウェイ・ノアを救出したのがケーラだったが、アムロに用いてアクシス攻撃に巻き込まれた。



アムロのものとインナーとズボンの色が異なる腰袋を腰に装備した。



アクシスを止めるため、車輪でネオ・ジオン艦隊に肉薄したケーラだった。

### ■「シャアの反乱」におけるケーラの戦いとその結末

U.C.0093.03初旬、地球・ラサへの5日ルルナ落としてしまったネオ・ジオンの軍事行動に対して、ロンド・ベルはその阻止にあつた。ケーラはその一員として戦いに臨み、アムロがRX-93 νガンダム登場のため隊を空けていた際には、彼に代わってネオ・ジオンの強襲に応戦。ラー・カイラムを守ってレズン・シュナイダーのAMS-119ギラ・ドーガと交戦している。また、アムロが νガンダムに乗り換えてからはリガズのパイロットとなり、さらなる作戦に従事した。そして、3月12

日にネオ・ジオンが始球凍結化作戦を実行に移すと、ロンド・ベルはアクシスの地球降下を阻止すべく攻撃を開始。ケーラは第一回の先鋒として出撃する。だが、アクシスに迫りながらもギュネイガスに諸機に襲撃される。さらに、ギュネイに撃沈されアムロに投降を迫る人質にされたケーラは、自らの命を顧みずアムロに敵の掌握を促した。しかし、投降しようとしたアムロの挙動を誤解して激昂したギュネイの機体に撃り落され、無理な屠戮を迎えることとなった。

ギュネイに人質に取られたあげく、ヤクト・ドーガに撃り落されて命を落とした。



## 我が身を顧みず戦ったケーラの気性と 彼女を支えたアストナージへの想い

ケーラは勇猛果敢で優れたパイロットだったが、高い戦闘と責任感の強さゆえに無茶な戦い方をすることも少なくなかった。アクシズの攻撃戦でギネイに捕獲されたのも、防衛線の突破に逃るあまり単機で突出したことが原因のひとつで、ケーラの激しい気性が招いた結果だったとも言える。一方、そうしたケーラの危うさを心配していたのが、彼女と恋仲にあったアストナージ・ドッグだった。その誕生日に、アクシズ攻撃の前に整備が終ったリ・ガズイを見て「これで自分ひとりでシャアを叩き潰せる」と語ったケーラに、アストナージは無茶を慎むよう説いていた。ケーラも彼の優しさを快く思い、彼が作ったサラダを食べる約束を交わして出発した。だが、ケーラは変わり果てた姿でラー・カイラムへと帰還し、アストナージを悲しませる結果となつたのである。



## ケーラ・スウを巡るさまざまな人間関係



映画では勇敢なパイロットとしての顔を見せたが、平穏にはやや恋愛色濃いな性格で周囲の人間とも親しげに接していた。

## ▶歴戦のメカニックマンの最期

アストナージはグリプス戦役と第一次ネオ・ジオン戦争を生き抜いたメカニックである。だが戦友だったケーラの後を追うように戦没死している。



アムロにサイコ・フレームを施す  
ようとするチエー  
ンを制止したと  
ころを、流れ弾の  
爆弾に巻き込まれ  
てしまつた。



## ▶MAIN MS

### RGM-89 ジェガン

アナハイム・エレクトロニクス社が開発した連邦軍主力MS。ロンド・ベルの主力機として配備され、ケーラもリ・ガズイ以前に搭乗した。



### RGZ-91 リ・ガズイ

Zガンダムの量産化を目指し、BWSによる簡易変形を探用した攻撃型MS。当初はアムロが乗組したが、のちにケーラが乗り継いだ。

優しいを愛せる女性に価値を して欲しいと と思ふアストナージに して、ケーラが いじらしのような 感覚をさせた。

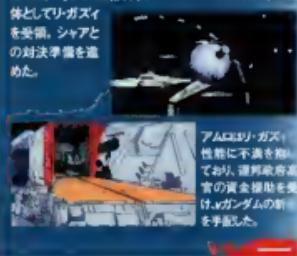




01

## ロンド・ベルへの配備

U.C.0090.03.21、武力的な反地球連邦政府活動の取り締まりを目的とした地球連邦軍外郭新規部隊「ロンド・ベル」が編成された。当初は口二姓民からの発と無能な地球連邦政府との間の板挟みによって成果らしい成果を出せなかつたが、U.C.0092.12.22に状況が一変した。シャア・アズナブル率いる新生ネオ・ジオングスペース・コロニー「スウィートウォーター」を占めたのだ。そこでMS部隊長のアムロ・レイは各自用の機体としてリガズィを受領。シャアとの対決準備を進めた。



02

## 5th Lunnaでの戦い

U.C.0093.02.27、テレビ番組のインタビューを受いたシャアが連邦政府に対する事実上の宣戦布告を発表。続く3月にはネオ・ジオング艦隊が小惑星5号ルナを襲撃し、地球連邦軍本部のあるチベットのラサに落下させたという事件が勃発した。対するロンド・ベルはアムロを中核とするMS部隊を派遣し、5号ルナの落下阻止を図ったが、これに失敗。とくにシャアの搭乗するニュータイプ専用MSサザビーガズィの性能は明白であり、戦闘終了後、アムロは「ガンドムの新鋭を急がせている。」



一方によると、サザビーガズィ接近戦をしたナオ・ジオングはマニューレーターに車両を来たし、彼達を全滅されたらしい。

サザビー他

03

## パイロット交代

月面都市フォン・ブラウンのAE社工場を訪れたアムロは、配備予定を3日も前倒ししてvガンドムの生産を進行した。その間、壁紙は新たな局面を迎つた。ロンド・ベルの新設なしに、連邦政府高官がネオ・ジオングと接触。アグニス導波と引き換えに武力削減の密約を取付けたのである。しかしアムロは、連邦政府の場となるルナに向かうナオ・ジオング艦隊が、まだと着陸。連邦軍本隊の協力を得られぬまま、ロンド・ベルはルナツー軍域に向かうことになった。



アムロ・リガズィの車両パイロットにならため、連邦軍本隊のケーラーが新たにパイロットに任命された。

## 戦況の経緯

U.C.0093に勃発した第二次ネオ・ジオング戦争(シャアの反乱)において、ネオ・ジオングと対戦したロンド・ベルは、U.C.0090.03.21に設立された連邦軍外郭新規部隊である。ハーマン・カーナーが引き起こした第一次ネオ・ジオング戦争をきっかけにした反地球連邦政府活動の活発化を取り締まることが主要な活動内容となつた。なかでもグリップス戦役後に消息を絶つたシャア・アズナブルの動向は注目され、コロニーへの復讐作のみならず、コロニーへの駐留や警備、治安維持を目的とする戦闘も許容された。だがロンド・ベルの必死の擁護にもかかわらず、シャアは力を盡す。ネオ・ジオングの決起を生産している。

### U.C.0088

- ・2月22日 グリップス戦役、終結。
- ・グリッド(シャア)、行方不明になる。
- ・2月29日 アクシス、各サイドに刺田芭靡隊を派遣。
- ・8月29日 ネオ・ジオング、ダーカルを占領。地球連邦政府にサビー家復興とサザビ3脚隊を承認させる。
- ・12月25日 ネオ・ジオングでグレミーが謀反。

### U.C.0089

- ・1月17日 第一次ネオ・ジオング戦争、終結。
- ・5月1日 連邦軍、アステロイドの管理体系を強化。
- ・8月25日 連邦軍、スペースノイド寄りのコロニーに対する経済制裁を強化。

### U.C.0090

- ・2月 連邦政府、難民收容施設としてコロニー「スウィートウォーター」を整備。
- ・3月 連邦軍、外郭新規部隊ロンド・ベル隊、設立。
- ・U.C.0092
  - ・8月 連邦軍、本部をチベットのラサに移駐。
  - ・12月13日 ネオ・ジオング、連邦軍に対して攻撃を示唆。
  - ・12月22日 ネオ・ジオング、スウィートウォーターを占領。以後、活動拠点として利用。
  - ・12月25日 連邦軍、ロンド・ベル隊を増強。

## アクシズ前戦

アムロの戦は正しく、ネオ・ジオンの武力放逐は フェイクだったことが判明。ルナツーに保護されていた 桃源頭が爆撃されたうえ、アクシズも占拠されてしまった。桃源頭を爆撃したアクシズを地球に落とし、 地表に「核の巣」をもたらす—それにそぎシャアの 猛いたたかだ。これを阻止すべく、ロンド・ペルは 機隊とMS部隊をアクシズに向けて進撃させる。桃源頭を 混ぜたミサイル群でネオ・ジオンを攻撃し、MS 部隊をアクシズに駆けかせようというのだ。だが計画は 略々失敗し、アクシズの爆撃(ムス、エンジンが点火、 地球落下軌道に入ってしまう。諦めきれないケー ラはリガズイでエンジンの爆撃を試みるのだが、ギュ ネイガスの撞るヤクトドーガに囚われてしまう。

エンジンの爆撃 に爆起になるケーラはヤクト・ドーガ への注意がある そこになり、機体 を中破させられて しまう。



## MS OTHER 戦記

リファイン機としての意義

MS開発において改修機やリファイン機と呼ばれる機体が多い。機体設計を一から行うよりも基礎設計を用いたほうが時間もコストも圧縮できるからだ。そのため傑作機をベースにすればいいと考えかちなのだが、傑作機のリファイン機は傑作機になり得るとは限らない。むしろ試作機で計画が見直されることが多いんだ。なぜなら傑作機の設計には特殊機能や特殊構造が盛り込まれており、これらが開発コストの増加になるのだ。そのため設計を見直して特殊機能を安価に別の手段で実現してもいいかと、中途半端の機体になったり、高価な機構を使用して駄目なだけにならなくなってしまうのである。リガズイはベース機となったZガンダムの变形機構を見直し、量産化も程程に入れた機体だった。しかし新たに導入されたBWEでもコスト低減にはつながなかつた。その意味で考へればリファイン機のベースに相応しいのは、機体設計に柔軟性のある量産機かもしれない。

WR形態への変形が特徴のZガンダム。機体性能に比して開発コストも高額で、簡単な形態が求められた



リガズイ以外にもリファイン案は進められ、デルタプラスもその一種の機体。ただし試作量産の件は寝えられなかった。



## 半壊状態での出撃

重いもむかしくケーラが犠牲となってしまった。アムロは中破したリガズイとケーラの遺体とともにロンド・ペルに保護された。とはいっても死を悼む時間はなく、アクシズの地球落下阻止の計画が立ちあつた。MS部隊がネオ・ジオンを引き付けていた間にロンド・ペル艦隊がアクシズに着陸。上陸部隊が爆撃を設置し、内部からアクシズを分割。その後艦を落と下船道から小惑星をそらそらといだ。司令官ブライト・ノアの命令を合団に作戦は開始され、アムロも機場へ向かっていく。すると、アムロの後ろ姿に不審を感じたチエーン・アジールが半壊したリガズイに搭乗。サイコ・フレームの試料をアムロに届けるべく、同僚の制止を振り切って発進してしまった。

移動中のチエーンは、ウェス・バラヤの書く「アーチャーに取り付くジアン(ハイロッカ)はハサウェイ(ニア)を見失した。



## ヤクト・ドーガ 他

リフードを削除し ユネイは、 ダメの状態を ある。アムロは要 を受け入れ、こ は武器を放棄 たのだが

ハサウェイ ールに覆わ いると誤解。 チエーンは、 ネドで攻撃



サイコ・フレームの試料がその宇宙から飛び出し、またの苦難を引き起こすことになった。



## α・アジール 他

## 悲劇に続く不可解な現象

このとき、ハサウェイはウェスを背中にあり、彼女をシヤアの下から引き離そうとしていた。だが事情を知らないチエーンとアジールは彼MAであり、攻撃を仕掛けたのは彼女の専能である。リガズイから逃れたアリネークの直撃を受けたアジールは爆撃、チエーンはアムロの死へと向かうようとするのだが、ほかならぬハサウェイからの競争に晒されてしまう。反撃もできぬままライフルの炎火に晒さたリガズイは、ついにコピカビに直撃を受けて爆発。だがその直後、不思議な現象が起こった。リガズイを中心に、機体の爆発とは異なる炎ばかりの現象が発生したのだ。さらにチエーンが身に残っていたサイコ・フレームの試料が、まるで彼女の直撃を引倒すいたかのように、アクシズに向かって飛び去っていった。

リガズイの放ったクレネードの油炎を受けたα・アジールは爆発に包まれ、エスを含む落としている。ちなみに着弾の直前、α・アジールがジエガを直しようとしていたところによれば、ハサウェイは爆発に巻き込まれて消えたのではない。



## サイコ・フレームの躍き

- ・2月27日 シャア、インタビュー番組で連邦政府に対する事実上の宣戦布告を行う。
- ・3月3日 ネオ・ジオン艦隊、スウィートウォーターを発進。
- ・3月4日 5thルナ、ラサに落下。
- ・3月6日 ネオ・ジオンと連邦政府、サイド6のロニー「ロンデンニオン」で相対裏に和平交渉を実施。
- ・3月12日 ネオ・ジオン艦隊、投降を誓ってアクシズを窓留。ルナツーが5回攻撃した桃源頭を襲え、地球落下コースに乗せる。アムロ、アクシズ、地球落下コースから外れる。
- ・「シャアの反乱」終結。シャアとアムロ、行方不明に。

チエーンの横行したサイコ・フレームの試料は、彼女の死後もその遺志が重り移ったかのようにに戦場に留まつた。そしてα・アジールから発してアクシズを覆い置くなど不可解な躍きを先導するかのように、地球周回軌道上を移動。試料に導かれた躍きは宇宙だけでなく地上からも認証され、人々の心に強烈な印象を残した。この現象は「アクシズ・ショック」と呼ばれ、のちに科学的分析がなされている。とはいっても本質的な部分はいままで包まれており、畏怖と驚愕の元となっている。

動力もないサイコ・フレームの試料だが、独自に発光しただけでなく、戦場を高速で飛行している。



試料に導かれた躍きが地球を巻いていく。たがこの奇跡を目の当たりにしても人類に変革は起こらなかった。

# MS進化論

## KEYWORD

### Z計画

ラーヴとAE(アナハイム・エレクトロニクス)による可変MS開発計画。いくつかの試作機を経てMSZ-006 Zガンダムが開発された。その後もバリエーション機の開発が続けられた。

### ロンド・ベル

反逆連邦軍の外郭新興部隊で、反逆連邦機の拘束などを主任務としていた。ブライトノアのほか、アムロ・レイが所属しており、「シャアの反乱」においては独自にアクシス地下阻止作戦を展開した。

### シャアの反乱

UC-0093に発生した動乱。シャア・アズナブル率いるネオ・ジオンは、軍事的、政治的手段を駆使して地球連邦軍を罷免、「地球寒帯化作戦」を展開するが、作戦は失敗に終わる。



MSZ-006 Zガンダム

「Z計画」で開発された可変MS。WRIウェイブライダー(形態への変形機構)を備え、単機での大気圏突入が可能なほか、高い機動力から「グリップ戦闘期における最高傑作」に数えられる。複数機が開発されたほか、バリエーション機も多数開発された。

MSA-005  
メタス

「Z計画」で開発された可変機構の試作機。腹部が3本のフレームで構成されている点が特徴。MSとしての性能は決して高いとは言えなかつたが、MA形態は高機能を發揮したことから、実戦に投入された。



## [U.C.0093 RGZ-91 リ・ガズイ]

MSZ-006 Zガンダムの筋道量産機にあたるRGZ-91 リ・ガズイ。数あるZガンダムのバリエーションのひとつであり、BWSにより極めて高い運用性を獲得した。

### MSZ-006A1

#### Zプラス A1型(テスト機)

大気圏内用の可変MSとしてZガンダムを再設計した機体。少額が生産されカラバが運用したほか、UC-0090年代中期にも一部の基地に配備され、運用が続けられていた。なお、赤いカラーリングの機体はアムロ・レイ大尉がパイロットを務めたといわれる。



### MSZ-006C1 ZプラスC1型

ZプラスA1型をベースに宇宙戦に再設計した可変MS。Zガンダムに匹敵するカラログスペックを有するハイエンド機。スマスターを増設したバックパックとビーム・スマートガンを装備する。宇宙でのセッティングが必要なため、大気圏再突入も可能。



## 生産

## 再設計

## 計画

### MSZ-007 量産型Zガンダム

Zガンダムの変形機構をオミットし、頭部ユニットも簡略化することで、武コスト化と量産化を成し遂げようとした機体。目的は達成したもの。それでも他の機体に比べて開発コストは高騰。百式系MSの量産が決定したため、開発計画は中止されたと言われる。



MSZ-008 ZII  
(ゼッツー)

「Z計画」の系続機のひとつ。可変機構の簡略化と操縦性の改善を図っており、特に前脚はMSA-005 メタスに近いものと採用。戦闘用対戦闘用に優れる機体として完成した。本格的に生産はされなかつたが、試作機が実戦に投入されたという。



## 後継

## 発展

### RGZ-95C リセル(隊長機)

リゼルの隊長機仕様で、一般機と比べてバックパックが変更されている。このC型はリミッターの上限が解除されているほか、フレームの補強などの再調節が施された。処理によってリセル本来の性能を発揮した。



## 可変MSの模索と発展

### RGZ-91 リ・ガズィ

Ζガンダムの副生機として開発された機体。高コスト化に悩む可変機構を廻す、「バクト・エボン・システム（BWS）」。其普段のみ変形が可能となっている。特にBWS装備時の高速巡航（もしくはスペース・ファイター）形態では、高い戦闘力を発揮した。機體にはバイオセンサーを採用。これによりスペック上はΖガンダムに匹敵する。アムロ・レイ搭乗の試作機が「シャアの反乱」に投入されたほか、U.C.0090年代中期にもラー・カイラムの格納庫にその姿が描画される。



簡易生産

### RGZ-91B リ・ガズィ・カスタム

リ・ガズィの再設計機で、アムロ用に開発されたと言われ、左翼のバーサルマークから名前がうかがえる。MS本体とBWSが一体化しており単独での変形が可能となっている点が特徴。ビーム・アサルトライフルに加え、ビーム・キャノンなど武装も豊富。



### RGZ-95 リセル

Z型やメタスの変形機構を取り入れて開発された可変MS。内装などをRGM-80 ジェガンと統一することで実用性や堅固性が向上。さらに新型OSの搭載で操作性も改善されている。WR形態ではSFS（サブ・ライト・システム）としての運用も可能。

リミッター仕様  
(ダウン・グレード)

チーム・  
カスタマイズ

強化

### RGZ-95

リセル（ディフェンサーbユニット）

Ζディフェンサーの発展形ともいえる「Ζディフェンサー・ユニット」を装備したタイプ。宇宙空間における強襲用の装備で、aユニットとbユニットの2種が開発された。このbユニットはジェネレーターの増設により、複数のビーム兵器の運用が可能。



「Ζ計画」の到達点のひとつであるΖガンダムは、さまざまな形態での発展が模索された。リ・ガズィもそのひとつだが、可変MSというフォーマットのためか、量産化がされたものは極めて限られる。そしてこれは別の方向でのMS開発も進められた。それがデルタガンダムを始祖とする系譜で、デルタプラス系の機体を生み出すごとなつた。

### RGZ-95C リセルC型 (ゼネラル・レビル配備機)

地球連邦宇宙軍の地球軌道艦隊旗艦であるゼネラル・レビルに配備されていたリセル。



MSN-001A1  
デルタプラス

チーム・  
カスタマイズ



# 試作機と主力量産機

宇宙世紀の戦場の王者であるMSも、ほかのカテゴリーのマシンと同じく、試作を経て量産化に至る。いわゆる試作MSと主力量産MSである。戦う期にはMSやMAの試作機が積極的に戦場に投入され、主力量産MS開発のためのデータを収集したのだった。

## 相互関係にある 試作MSと主力量産MS

機動兵器の分類方法のひとつに「試作」と「量産」がある。一般には、量産MS開発のためのテストベッドが試作MS、試作MSで得られたデータを基に開発される大量生産前提の機体が量産MSにあたる。これはほかの工業製品全般と同様の構図であるが、試作MSと主力量産MSの場合、兵器というビーカーの特性上、特殊な立ち位置にあった。

一般の工業製品の場合、販売ルートに乗るのは量産品であり、試作品が流通することはない。だがMSやMAの場合、官立工廠製にしろ民間企業製にしろ、試作MSも発注元である軍に提供されることが多かった（発注を受けずに企業が独自開発した機体の場合、この限りではない）。軍事機密の塊である試作MSを軍が管理したがるのは当然だが、開発現場自体を軍が管理するケースが少なくないこと、そしてテストにあたって軍の勘定が必要となることが大きな理由といえよう。特にMSやMAで、顕著な実戦テストは、交戦権をはじめとする法的な問題やバックアップ体制の確立といったクリアすべき要項が多く、その条件を満たせる軍の開発が必要となりやすかった。

## 「強い」試作MSと「弱い」量産MS

試作MSと主力量産MSに関する一般的見方に、試作MSは「強い」が、主力量産MSは「弱い」というものがある。一角戦争時の地球連邦軍試作MSであるRX-78 ガンダムと、その量産型RGM-79 ジムの関係が知られる。実際の戦闘能力もガンダムがジムを凌駕しておらず、ガンダムが伝説的戦果を上げたのに対して、ジムは「粗悪品」との悪評が流布している。

この背景には、ガンダムが採算度外視で開発されたこと、ジムがガンダムの簡易版として設計されたうえ、粗製滥造とまでいわれる体制下で大生産されたことなどがある（ガンダムとジムが同時に実戦投入されたため比較されやすかったことも大きい）。また、以後のガンダムタイプが各組織のフランジップマシンとして試作された結果、試作MS=高性能というイメージが強くなっていた。

もっとも、これはガンダムタイプや初期RXシリーズにはほぼ既定される傾向であり、連邦軍系以外ではあまり見られなかった。

## TECHNOLOGY INFO

### 組織で異なる試作・主力量産MSの開発

上述のように連邦軍系のガンダムタイプMSは、高コストながら絶対性能に優れる試作機、費用対効率を重視した量産機という観點である。しかし、ジョン公国軍やその後継組織では、試作機とその量産機を比較しても前者が特別高性能ということはない。クロスボーン・バングードやサンスカルード帝国軍ベースも、同様であった。

### 連邦系

ガンダムタイプの試作機が高性能なのは確かだが、RX-78以降、ジム系の全軍共通の量産機は必ずしもガンダムタイプを原型としなくなかった。



ジム系はジムI、ジムIIと改良が続けられた。後継機であるジムガンダムやヘビーガンはガンダムタイプの確実的な量産機ではない。

### ジョン系

プロトタイプ・ザクのように、スペック面で後継量産機に勝る試作MSも少數存在。量産型キュベレイなども、試作MSと互角以上の性能を持つ。



プロトタイプ・ザクの量産機に相当するザクは、スペックこそ前身機に劣るが、脚部の自由度や兵装面で勝っていた。

### 試作機と主力量産機の差

一般的に試作MSと主力量産MSは対の存在で、試作MSを基に量産機が開発される。試作MSは理論値や従来機のデータを基に設計されるはか、新技術を導入されており、必ずしも実戦向きではない。主力量産MSは試作MSで走り出された問題点を解決しているうえ生産数も多いため、安定的な運用が可能となる。

### ■試作機

主力量産MSの開発、新技術の試験などを目的に試作されたMS。テストベッドとして開発されたMSのなかには、実用距離に達していない機体もある。ガンダムタイプMSやフランジップマシンの大半は、試作MSとして開発された。



RX-7B-2 ガンダム

一年戦争時の連邦軍の白兵  
戦闘試作MS。ビームライフル  
やルナ・チタニウム合金製脚  
甲などの革新技術を採用



RX-78-2

ガ

ン

ダ

ム

2

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

0

## 試作を重ねての量産化

技術面などの問題から試作に試作を重ねる例もある。ジオン公国における最初期のMS開発が代表的な例であり、史上初のMSであるMS-01(ZH-XA3)からMS-04までの試作MSを経て、初の実戦用MS-MS-05 ザクがようやくロールアウトした。なお、MS-01からMS-04 プロトタイプ・ザクまでの4機のうち、MS-03は一度、大規模な改修を受けているため、ザクの完成までに前合5機種の試作MSが存在したことになる（MS-04の型式番号を持つ機体がプロトタイプ・ザクアーリー・ザクの2機種存在したとの説をとるなら、都合6機種）。一年戦争時のRX系MSも複数の試作機を経ているといふ。

MSの試作1号機「MS-01」の完成はUC 0073、ザクの実戦型のロールアウトはUC 0075-06。この後も運用データの収集は続いた。



可変MS開発プロジェクト「Z計画」では、様々なMSが同時並行的に試作された。この結果、誕生した試作MSの数は相当数にのぼる。

## 先行試作機と主力量産機

試作機の開発から主力量産機のロールアウトまでの間、別ルートで先行試作機が開発された例、RX-78 ガンダムからRGM-79 シムのロールアウトまで、RX-79 [G] 陸戦型カンダムとRGM-79 [G] 陸戦型ジムが先行試作の形で量産された例が代表的である（これほどは宇宙用のRGM-79 [E] も開発されたという）。陸戦型カンダムの場合、MSの早期戦力化を求める連邦陸軍の要請に応じ、カンダムの余剰バーブが使用された。陸戦型シムも同様の経緯で開発されたが、ジムのデータ収集の要請もあった。



陸戦型ガンダム、陸戦型シムとともに生産性は低く、過度期待な機体。両機種のなかで最後発のジムが真の量産機である。

## MORE INFO

### 試作MSと主力量産MSの型式番号

試作MSと主力量産MSは、型式番号で判別できる。連邦軍では、試作機は「RX」、主力量産機は「RGM」が付される。型式番号に「X」を付す機体も試作MSであることが多いが、連邦軍が他組織の機体に付した「AMX」や「XM」は例外だった。



ペルナの場合、試作機は「ZMT」、量産機は「ZM」で区別した。アクリザヤCVNに量産する機体は型式番号では判別できない。

### ■連邦系

#### RX

連邦軍のはばすべての試作機の型式番号。連邦系でもAE製やサナリイ製の機体は、必ずしもこの限りではない。



#### RG

ジムタイプには「RGM」で始まる型式番号が付される。ただし、ジム系の試作機も同様の型式番号が与えられることが多い。



### ■ジオン系

#### YMS

公国軍の試作MSでは「YMS」で始まる機体が多い（MS以前のモビルシングもYMT）。先行量産機でも使用例があった。



#### MS

主力量産MSの型式番号には「MS」が用いられたが、MS-01のような例外も。MAの場合、試作・量産もほぼ「MA」で統一。



## 二系統の主力量産機への発展

1機種の試作MSから、複数の主力量産MSに派生した例。道邦家のRX-77 ガンキャノンから、RGC-80 ジム・キャノンとRX-77D ガンキャノン量産型への分岐が代表的な事例である(ジム・キャノンの直接の前身はRGC-80 プロトタイプジム・キャノン、またはRGC-80-1 ジム・キャノン・テストタイプ)。ジム・キャノンはガンキャノンの簡易量産機といえるが、ガンキャノン量産型は試作機に匹敵する性能を有した。ガンダムでもジムだけでなく、ガンダムの完全量産化を指向した量産試作機RX-81 ジーラインが計画されている。



一旦分岐したガンキャノン系の量産機であるが、一年戦争後には両系統の影響下にあるジム・キャノンが誕生した。



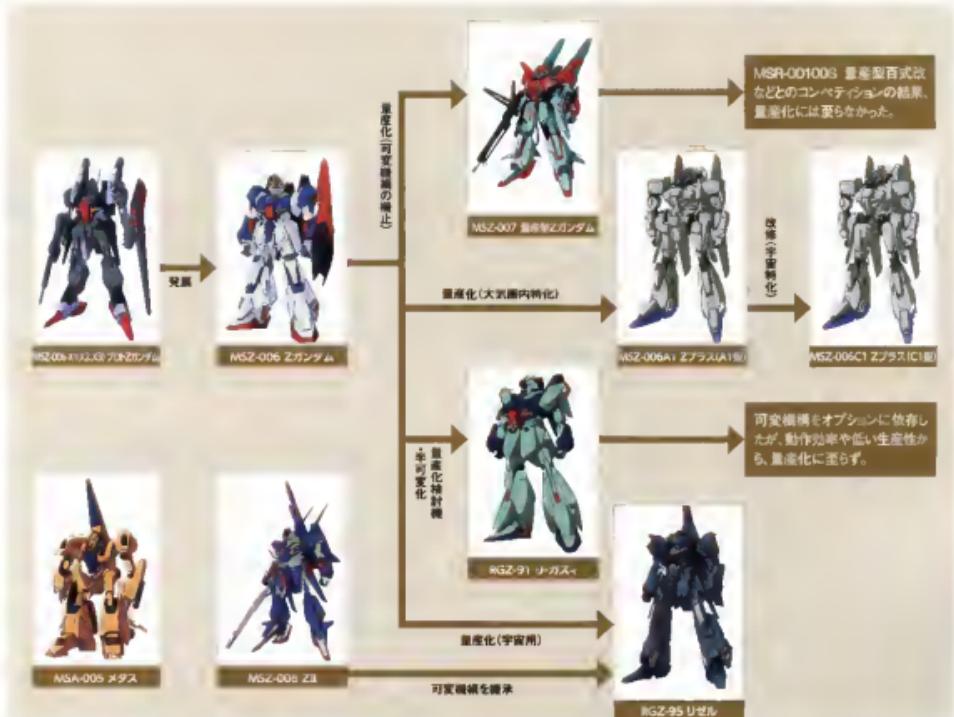
## 多様な量産化の試み

上述の「二系統の量産機への発展」より、さらに多くの量産化が試みられたものの、MSZ-006 Zガンダムの量産化計画が広く知られ、少なくとも4系統の量産化が検討されたといふ。「グリーン製造最高傑作機」といわれるZガンダムだが、ガンダム同様、高コストゆえに量産化は困難であった(Zガンダムそのものは数機生産)。そこで

採られた手法が、運用地域の設定と可変機構の廃止または簡略化である。前者の例がMSZ 006A1 Zプラスで、大気圏内用と宇宙用が開発され、量産化に至った。残り3系統は後者だが量産化に手間取り、ほかの「設計面」系MSの簡易可変機構やジムとの互換性確保により、RGZ-95リゼルとして量産化に成功した。



Zガンダムの量産化は簡略化の点半減が図られたが、第一次ネオジオン戦後のRGZシリーズで軌道に乗っていった。



## 試作MSの設計統合による量産化

量産化にあたり、複数の試作MSの設計を統合した事例。MS-07 グフが該当し、直接的な原型機であるYMS-07A プロトタイプ・グフをベースに、既存機種YMS-08A 高機動型試作機のデータが導入されたといわれる。通常系ではAE社製の量産MS-MSA-007 ネコがこのタイプである。ネコはガンダムタイプ2機種のハイブリッドと呼べる機体で、上半身はMSA-0012 1/1(ラムダ)ガンダム、下半身はMSA-0011(イオタ)ガンダム=Sカノンダムの設計となる。この結果、ネコは高級な主力量産MSとして完成した。



グフのランドセルは、高機動型試作機のデータを基に設計されたという。試作機では実機種間の技術流用が想定される。

## 量産機ベースの試作機と、

### 新量産機への技術導入

連邦軍のRGM-89S プロト・スタークジエカンは、RGM-89 ジェガン(A型)をベースに開発された封緘攻撃用試作MSであり、RGM-89D ジェガンD型のオプション機器バリエーションにあるRGM-89S (DS)スタークジエガンと直接的な影響を与えた。プロト・スタークジエガンとスタークジエガンの基本コンセプトは同様で、総合性能向上型としての側面も持っている。主力量産MSベースの試作MSの技術が、同系別の新型量産MSにフィードバックされる形である。方向性こそ異なるものの、MS-06R-1A 高機動型ザクR-1Aタイプの改修機であるMS-06R-2P 高機動型ザク・ビーム兵器搭載型が、MS-06R-2 高機動型ザクR-2タイプのプロトタイプとなったものに似ている。



コンティオを改良・発展させた試作機リ・コンティオ、大型火薬(ヴァリアルフレームガビーム・ランチャー)を新設する一方、ベース機と共に装備している。

プロト・スタークジエガンはジェガン(A型)の改修機、スタークジエカンはジェガンD型に増加装備を施した仕様となっている。

## MORE INFO

### 量産機不在の試作MS

試作MSの中には、量産化を前提としない機体も存在する。新技术の実験機、新たな試作MSの開発データ収集用、などが該当する。例えばティターンズのTRシリーズ(「TR-1～5」)は、TR-6開発のためのデータ収集用だった。



MSN-01 サイコミュ・システムを搭載試験機やMAN-03 ブラウ・プロは、MSN-02 ジオングのテスト機であった。

### ■ガンダム開発計画

一年戦争後、連邦系と公認系の技術融合を図り、それを導入した「最強の機動兵器」の開発を目指した計画。試作されたガンダムタイプ群は実験機的側面が強く、量産化は未想定。



RX-76GP02A  
ガンダム  
試作2号機

RX-76GP01  
ガンダム  
試作1号機

### ■UC計画

U.C.0100をもじるジオニズムを消滅させるための計画。サイコフレームを活用した超高性能MSが開発されたが、フル・サイコフレーム実装試作MSの完成で開発は停止したようだ。



MSN-05  
サンジャク・  
スタイル



RX-0  
ユニコーン  
ガンダム

RGZ-91 Re-GZ

## データのみ継承の開発

試作MSの量産化にあたっては、原型機の基本設計を踏襲しつつ改修を加える場合がある一方で、試作機のデータのみを引き継いで新たな試作MSや主力MSを開発する例もある。MS-14 ゲルググのテスト機にあたるMS-06R-3 ゲルググ先行試作型が、これに該当する。高機動型ザクII-2タイプをベースに、開発中だったゲルググのバージョンを組み込んだケルググ先行試作型ではあるが、本機で得られたデータを基盤としてゲルググが新規に開発されている。試作MS同士ではあるが、サイコ・システム高機動試作機とジオンの関係も近いもので、ジオングは前身機のデータを継承しつつ純然たる新設計機とされた。



やはり直系の試作機同士たか、兄弟機のシナジュー(スタイル)とユニコーンガンダムの基本設計は異なっている。



## 組織の垣根を越えた量産化

既に、MSの試作と量産が別組織で行われるケースがある。サイコ・ガンダム・シリーズからAMX-014 ドーベン・ウルフに至る一連のMS開発がその代表。サイコ・ガンダム・シリーズは通常軍系のニュータイプ研究所のひとつであるムラサメ研究所で開発されたが、その一般兵器向けの試作機といえるORK-013 ガンダム Mk.Vはオーガスタ研究所で建造された。その後、オーガスタ研のスタッフであるローレン・ナカモトがアクシスに移籍した際、後の手引きでカナダム Mk.Vの1機がアクシスに渡り、ドーベン・ウルフの開発ベースとなった。そのトーベン・ウルフも後に通常軍の手にわたり、別の機体に改修されている。



ドーベン・ウルフはガンダムMk.Vの量産機といえる第四世代MS。水中用ザクの後継機にあたるザク・マリナーは運用型。



## 主力量産機系の発展と試作機の技術流入

ジムタイプに代表される主力量産MSシリーズの発展のなかで、改修に際して新試作MSの技術が導入されるケースがある。ジムタイプといえば、RMS-179 (RGM-79R) ジムIIからRGM-88R ジムIIIへのアップデートに際して、RX-17B カンダム Mk-IIの技術が採用された。ほかにもRGM-79N ジム・カスタムに、RX-78BT-1 アレックスの影響が見られる。こうした傾向はシオン系では半別筋にいく。同一シリーズの運用が長い連続系で継承である。運用期間こそ長くない段階だったが、可変量産MSリセルではウイング・バイナーダーやメガ・ビーム・ランチャなど、「凸十画」系で培われた技術を取り入れたオプションが多用意された。



シオン系はバックパックにガンダムMk.IIの影響が顕著。リベルはオプションに百式やΖガンダムなどの技術が盛り込まれた。





イラストレーター：肘見

## 高性能な試作MSの実戦投入と「量産化」

ガンダムに代表される連邦軍のRXシリーズや公団軍のジオングなど、一年戦争時から試作MSの実戦投入は頻繁に行われている。これは実戦テストだけでなく、実戦力としての投入例も常態化していく。

そうした状況のなかで、実戦に耐えうる高性能な試作MSを多数生産し、戦力化する傾向が見られるようになった。事実上の試作MSの「量産化」である可変MSならではの運用性と高い生産性が評価されたMSA-005メタス、連邦軍傘下のニュータイプ研究所が開発した可変MA・NRX-044アッシマーなどがその代表である。RX-78 ガンダム、MSZ-006 Zガンダム、MSZ-010 ZZガンダム（のバリエーション機）も量産というほどではないが比較的生産数が多く、数々の戦闘で少なからぬ戦果を挙げた。例えば一年戦争期のRX-78ナンバー機だけでも、10機ほどが実戦投入されたと考えられている。

見てわかるように連邦系に多い傾向で、他組織ではあまり見られなかった。

### ■NRX-044 アッシマー

連邦軍傘下のニュータイプ研究所本部が中心となって開発した大気圏内用の試作可変MA。サブ・プライ・システムとMSの組み合わせと比べて、運用性や空戦能力などに秀てる。



ニュータイプ研究所魔部隊だけでなく、ダーカル守備隊をはじめ、各基地に広く配備



### ■F91 ガンダムF91

サナリイが「計画」で開発した第二期MS。開発時、「現時点でのMS限界性能の達成」を目指した過高性能試作MSであった。少數量産され、U.C.0133の木星戦役などで活躍したといわれる。



量産機は試作機のような「分身」にできないというが、リミッターの解除機能は備え。



## MORE INFO

### MAの量産化

左記のアッシマーを除けば、MAが量産化された例はさわめて少ない（そもそも機種自体が少ない）。それでも量産計画自体は構築されており、公団軍はMA-08 ビグ・ザムの量産化によるジャブロー侵攻を企図したという。ソロモン攻略戦で証明されたようにビグ・ザムの威力は強大であったが、終戦により量産計画は頓挫した（少數が生産された説もある）。

### MA-08 ビグ・ザム

ジャブロー攻撃用に開発された試作MA。量産仕様機は、大気圧突入とミノソースキーラフトによる飛行が可能とされる。



非可変式MAとしては生産数が多いMA-08 ビグ・ザム。木星戦区でMAが量産化されたとも書かれる。



比較的生産数が多いこともあり、ビグロはバリエーションが数機種、開発されている。





DWSIによる頭部变形機構を利用したリーガズイだけに、高密度熱遮断からMS内部への変形に必要な時間はごくわずか、変形後の熱もほとんどなく、すぐに戦闘に移行できるのも特徴のひとつである。

# シャアの反乱

第二次新吉翁戦争、シャア・アズナブルの  
再誕生されたネオ・ジオンが、宇宙を駆けめぐらす  
を主導とする「地球堅冷化」計画に、世界を震撼さ  
せた。これは外郭新興部隊ロンド・ベルがこじらか  
た事件で、世界が驚け興奮している。





## 5thルナの地球落下とネオ・ジオンとの密約

スーアイト・ウォーターの占據以前から連邦政府が、軍に敵対勢を示したネオ・ジオンだが、その裏で地球寒冷化作戦、第一段階の攻撃目標を連邦政府にリーグしていた。これを受けた連邦政府はネオ・ジオンと交渉可能な相手を見なし、連邦軍の中枢都市ラサへの5thルナ落下と認めた(5thルナ移動用の核バルス・エン

ジン用ペレットを、ネオ・ジオンに提供したといわれる)。

5thルナ落下後、ネオ・ジオンと極端和平会談を持った連邦政府は、ネオ・ジオンの武装解除を引き換えて、スーアイト・ウォーターと小惑星基地アクシズの移譲(売却)を認めている。しかしネオ・ジオンに武装解除の意図はなく、地球寒冷化作戦を最終段階へと進めた。



### ①宣戰布告

UC 0089.02.27  
のインタビュー  
書類において、  
シャアが連邦政  
府に対し事実上  
の宣戰布告。連  
邦政府には事前  
に通告されてい  
たようだ。

### ②ロンドニオンでの密約

3月6日、ロンドニオンにおいてネオ・ジオンと連邦政府が秘密裏に和平交渉。ネオ・ジオンは武装解除を(美向)受諾し、連邦政府が管理下に置いていた小惑星基地アクシズを買収した。



### ③ネオ・ジオン艦隊、 スーアイト・ウォーターを発進

3月3日、地球への5thルナ投下(地球寒冷化作戦の第一段階)のためネオ・ジオン艦隊がスーアイト・ウォーターを発進。

### ④ネオ・ジオン、ロンド・ペルを撃爆

ネオ・ジオンがロンド・ペルに攻撃をしかけた後、スーアイト・ウォーターへ、シャアのサイド1(ロンドニオン)に行きを妨害するため爆撃だった。この際ロンド・ペルも、シャアとの対決のため宇宙船に上ったアラウア・パラヤ率群衆を保護し、ロンドニオンに向かった。

### ⑤5thルナ、ラサに落下

ネオ・ジオン、資源小惑星5thルナを地球への落下軌道へ、ロンド・ペルが阻止行動に出たが、3月4日、5thルナはチベットのラサに落着した。



## 小惑星アクシズを巡る戦闘

武装解除を図ってスーアイト・ウォーターを発ったネオ・ジオンは、艦隊を二分成小惑星基地アクシズを制圧しつつ、連邦軍の宇宙拠点ルナツーに攻撃して核兵器を入手した。多数の核兵器を積み込んだアクシズを地球に落とさせることで、地球寒冷化作戦を完遂するためである。

シャアに和平の意思がないことを理解していたロンド・

ペルは、初動に遅れつつも阻止作戦を展開。最終的にアクシズの分断に成功したものの、その後方部分が地球への落下軌道に残ってしまう。これによりアクシズの地球落下は不可避となつたはずだったが、謎の発光現象によりアクシズは落下軌道から逸れていった。結果、地球寒冷化作戦は失敗し「シャアの反乱」は終結したのだった。



### ⑥ロンド・ペル、アクシズを撃爆

アクシズ雷撃に倒れたロンド・ペル、アクシズに核攻撃を加えるも全滅が撃墜される。ネオ・ジオンはアクシズの加速度を開始し、分離隊と合流。

### ⑦ロンド・ペル、アクシズを分断

ロンド・ペルが艦隊砲、核攻撃、アクシズへの侵入からなる三段構成の作戦を実施。最終的に実施した侵入破壊工作によりアクシズは分断されたが、その後方部分が地球への落下軌道に残ってしまう。

### ⑧アクシズ、地球落下軌道を離れる

地球への落下が不可避となつたはずのアクシズだが、謎の発光現象(アクシズ・ショック)により落下軌道を外れた。これにより「シャアの反乱」は終結した。3月12日のことであった。

⑨ネオ・ジオン艦隊、アクシズヒルナツーへ  
武装解除を図ったネオ・ジオン、艦隊をアクシズヒルナツーに分遣。この際、艦隊にタミーを加えることで敵を偽装した。ロンド・ペル隊はアクシズ阻止作戦のため、非合法に核弾頭入手している。



### ⑩ネオ・ジオン、アクシズを制圧

シャアが直接指揮するネオ・ジオン主力艦隊が、アクシズを制圧。ロンド・ペルはロンドニオンから発進したばかりだった。





イラスト: 一ノ瀬 達也

## ネオ・ジオンの弱体化と「アクシズ・ショック」

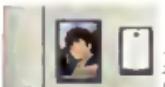
「シャアの反乱」は、地球寒冷化作戦の失敗という形で終結した。戦略的には連邦の勝利である（ほぼ全期間を通してネオ・ジオンと戦ったのは、連邦政府の意向とは無関係に独自戦闘で動いたロンド・ベルだけ）。一方のネオ・ジオンは作戦に失敗しただけでなく、戦力の多くのを失ったうえ、総帥シャア・アズナブルが未帰還になるなど、深刻な打撃を受けることとなった。

地球寒冷化作戦の阻止とシャアの未帰還は、連邦政府を小躍りさせたかと思いきや別の問題が浮上する。アクシズの地球落石を阻止した原因不明の発光現象、いわゆる「アクシズ・ショック」である。

新星サイコ・マテリアル「サイコフレーム」によって引き起こされた「アクシズ・ショック」に強い危機感を覚えた連邦政府および連邦軍は、その管理に乗り出した。だがその一方で、ジオニズムの一極を掲げる「UC計画」ではサイコフレーム搭載MSを積極的に開発することとなった。

### ロンド・ベル

多大な犠牲を払って地球寒冷化作戦を阻止したロンド・ベルだが、軍内での立場は改善されていない。それでも新型機の優先配備は続いた。



一年戦争の英雄で隊のエース、アムロ・レイは未帰還となり、後に戦死認定。

### ネオ・ジオン

シャアの未帰還により、組織の求心力が著しく低下した。さらなる戦力の減少もあり、ネオ・ジオンとしての主体的行動は困難に。



シャアの副官ナナイ・ミゲルや旗艦長ライラもネオ・ジオンを離れたようだ。

### 連邦政府・連邦軍

連邦政府・軍が受けた被害は額定的だったが、未解明の部分が大きすぎるサイコフレームの問題が浮上。管理強化の方針がとられた。



翌年には「UC計画」を始動し、フル・サイコフレーム実戦試作MSの開発に着手している。

## MORE INFO

### ネオ・ジオン残党軍「袖付き」

シャアを失ったネオ・ジオン残党軍の最大勢力は、「袖付き」（連邦傭兵による俗称）となった。この組織は当初、烏合の衆に過ぎなかったものの、ジオン共和国右派が送り込んだ強化人間「シャアの再来」フル・フロンタルにより急速に組織化。「ラプラス事変」で重要な役割を演じることになった。



### フル・フロンタル

「袖付き」の首領。シャアに感化した外見と声を有する強化人間。



### ミネバ・ラオス・ガビ

「袖付き」の參謀的存在。行方不明となっていたミネバ本人である。

# GUNPLA Generation

ガンプラ ジェネレーション

vol.22

## RGZ-91 リ・ガズィ

「vガンダム登場までの巻き」ではあったものの、アムロ・レイ専用機として劇中に登場したり・ガズィ。その立ち位置を考えると、ガンプラ市場での展開はやや寂しいものとなっているのが実情だ。

## アムロ専用機さえリスクが付きまとった時代

1980年代前半のガンプラーム時には、ほぼすべてのMSが1/144と1/100の両スケールにて製品化されていた。が、1985年に登場がスタートした「魔動戦士Ζガンダム」の初期こそ発売されたが、以降の作品ではガレージキットの主役以外は1/144スケールでしか発売されないことが常識となってしまう。

1988年公開の劇場版「魔動戦士Ζガンダム」逆襲のシャア! もやはり同様で、1/100スケールで製品化されたのはvガンダムのみ。シャア専用機 サザビーも、アムロ専用機 ガズィも、1/100スケールキット化という高い壁を乗り越えることができなかったのだ。

1987年12月発売の1/144 リ・ガズィ(価格864円)は多色成型が採用されプロポーションも決して悪くなかった。たゞリ・ガズィ最大の特徴である「バク・ウェポン・システム」は付属しておらず、少々物足りなさが残ったのも事実。「バク・ウェポン・システムを付属させ価格を上げるという行為に付きまとリスク」を払拭することができなかつた時代が付きました事を、若い世代にはぜひとも知っておいていただきたい。

この時代のガンプラ特有のプロポーションとも言える1/144スケールキット。デザイン面より大顎部が短く顎から下が長く見える。



時代を裏切らせたパッケージデザインとそのイラストは、「逆襲のシャア」開拓 ガンプラにおける魅力のひとつと言えただろ。

リニューアル化にてようやく実現した  
バク・ウェポン・システムとの合体

場映画公開から13年後、いよいよ待望のバク・ウェポン・システムが付属されるに至る。2001年6月発売の、マスタークレードモデル=MG(価格4,320円)。

リ・ガズィ本体とバク・ウェポン・システムを合体させる変形機構そのものはそれほど複雑ではないため、当然と言えばそれまでだが、MS側の肩や脚関節、腰アーマーなどには相応の変形合体専用のギミックが設けられた。とく



とくかくアクションポーズが抜群で決してないHGU。可動性も主張するに決まらないアイテムであると言えよう。



MGでのリメイクということもあり、プロポーションは格段に進化。非常に滑らかな体型のMSが形成化した。

に脚関節に関してはいわゆる肩足り状態の変形が強引られるため、二重関節構造が採用されただけでなく、可動で変形を繰り返すことにより生じる関節の痛みを調節することができるビス留め機構を採用していたのは当時としては優れた設計と言えた。

さらに、同時期のMGは「組み立て完了後に装甲内部のメカニックを視覚化させる」という点に重きが置かれていたため、脇から下側の装甲の取り外しが可能となつており、「さすがはMG」と称すべき内容と化していたのも秀逸



MG化により「バク・ウェポン・システム」あっての「リ・ガズィ」というあたりまえの革新的を改めて体感するに至る。

であった。旧1/144スケールキットで煮え温を飲まされた(?)人々からすると、この1/100スケール MG化はまさしく進歩の製品化と言えたであろう。つまり「アムロ専用機」ならではの価値観は、ここでようやく育まれた感があつたように思う。また、たった2パートによる簡易的な構成であつたにもかかわらず、バク・ウェポン・システム装着状態で格好よく飾れる専用ディスプレイベースが付属していた点も付記しておきたい。

そしてスケールこそ1/144であるものの、1/100のMGと同様以上のスペックを有する製品が2008年1月に発売されるに至る。ハイグレードユニバーサルセンチュリー=HGUcでのキット化(価格3,024円)だ。

バク・ウェポン・システムと合体した高達巡航態態時にシールドの展開ペーム・ライフルが収取可能であつたり、腕部のグレネードランチャーはスライドギミックにより射出準備状態が再現できるあたりはMGと同様で、バク・ウェポン・システムと無理なく合体させるための変形ギミックもMGにはほほほじた仕様だが、腕部と脚部の可動領域をゼロから見直したことにより、MG以上にダイナミック、かつ自然なアクションポーズを取れることになったのが最大のポイントといえるはずだ。

別売のアクションベースを2個使用すれば、「バク・ウェポン・システムの切り離しシャン」の再現も可実だ。



# NEXT MS

次号予告

ISSUE  
**23**

## お知らせ

諸般の事情により、**ガンダム・モビルスーツ・バイブル**は、しばらくの間、発売外での発売にさせていただきます。次号、第23号の発売は8月6日(火)です。

## ビグロ

ジオン公国軍開発による宇宙空間戦闘用MA。  
圧倒的な加速性能と機動性を駆使した  
一撃離脱やすれ違いざまの強襲を得意とする。

お問い合わせなく安心! 発売日をメールでお知らせします! <https://deagostini.jp/oshirase/gms/>



DAEGOSTINI

**第23号**

**8月6日(火)発売**

**定価: 本体 639円 + 税**

※施設によって発送日が異なる場合があります。

※マガジンの内容が変更となる場合があります。

- 戦闘レポート  
軌道上で激戦
- MS機体解説  
機体解説／武裝解説
- 開発MSライensex  
ビグロと関連機体

- MSパイロット  
トクワンと周辺人物
- MS解説  
ビグロ 戦闘の記録
- MS進化論  
ビグロ 開発系譜図

- メカニック・ジャーナル  
試作機と量産機  
姿勢制御バニア  
シャアの反乱
- ガンプラ ジェネレーション  
宇宙での運用に特化した  
機体を忠実に再現!

ホワイトベースとガンダムを翻弄した高機動型MAを検証!

ガンダムMSバイブル  
専用マガジンケース  
好評発売中!!

キャンペーン  
期間特別価格

699円

贈呈に便利な  
ステッカー付き!

(1冊/8%込み)

特価期間: 2019年9月末まで

定期購読とあわせてのご注文で送料無料!

※マガジンケース1冊に本誌約10倍分を収納できます。

※尚可冊でもご購入いただけます。※発売日は変更になる可能性があります。



好評  
発売中



#17 キュベレイ



#18 Vガンダム



#19 グルグレM



#20 ユニコーンガンカタム  
2号機 バンシイ



#21 ギヤバン

※第1号～第16号も好評発売中。全国の書店でお求めください。

豊富なビジュアルと資料によって、毎号1機のMSを多角的に解説！

**GUNDAM**

**MS**

Mobile  
Suit

THE OFFICIAL

**Bible**

ガンダム・モビルスーツ・バイブル

RGZ-91 / リ・ガズイ



22

2019.8.6 / 8.13 合併号

リ・ガズイ

Re-GZ

RGZ-91

Total Height : 20.5m  
Weight : 24.7t  
Total Weight : 55.2t  
Material : Gundarium Alloy  
Generator Output : 2,550kW  
Thrusters Total Propulsion : 67,600kg



傑作機の簡易・量産化を目指して、誕生した試作MS



DEAGOSTINI

